UDLM

8

vol.336

休まらない夏

2023年8月31日（木）

天気：はれ

夏休みがきた。ただ、休んでばかりもいられない。
夏の暑さに駆られるようにして、何かに熱中しながら、
ときどき休みをとろう。

△工学部 14 号館バルコニーにて

p.2 夏休みはどこへ？
p.3 バルコニーのポテンシャル
p.4 お茶会のしつらえ
p.5-6 お茶会ギャラリー
p.7 読書感想文
p.8 WEB MAGAZINE, 編集後記

URBAN DESIGN LAB. MAGAZINE

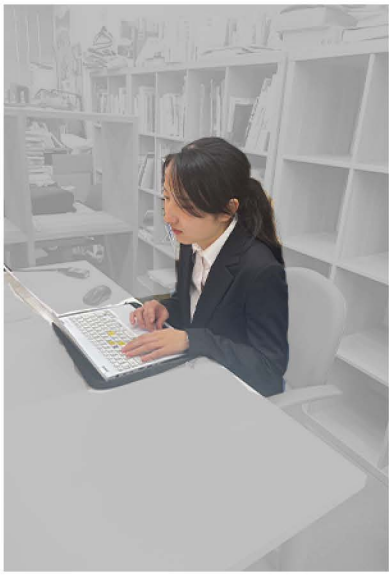
夏休みはどこへ？

夏休みと聞くと、心がワクワクする。
暑さがもたらす高揚感。
非日常の体験。
ただ、都市デザイン研究室の夏休みは、
ひとあじ違うかもしれない。

デザ研学生の夏休み

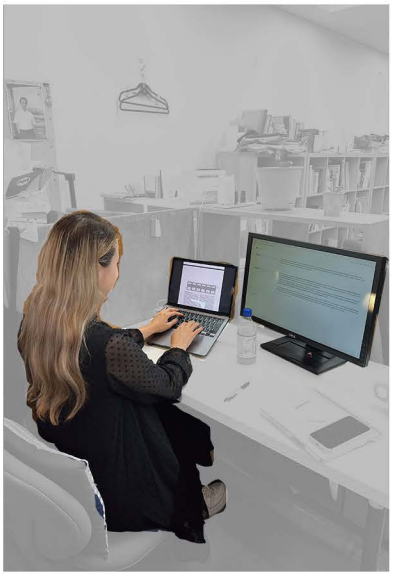
プロジェクト活動

都市デザイン研究室は、日本各地のまちづくり・都市デザイン活動に参画している。当然、まちづくりに夏休みはない。むしろ、祭やイベントで盛り上がる季節である。夏休み中でも学生たちは、先生たちも交えて会議を行うのが常だ。



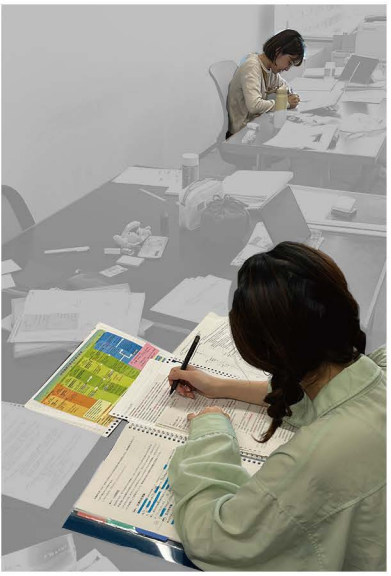
就職活動

修士1年の学生にとって、夏休みは就活の正念場。各社が「採用活動とは関係のない」夏インターンを行っている。早いところは夏休みまでに内々定が決まってしまう。研究室でも、暑い中スーツで登校している学生がしばしば見られる。



研究

夏は研究を行う学生にとっても重要な季節である。各種の調査に精を出すことができれば、研究テーマがさらに深まる。逆に、この波を乗り過ごしてしまった学生には、寒い冬が待っていることだろう。



大学院入試の勉強

修士への進学を希望する学部4年生は、夏休みに大学院試験を受けることとなる。研究室では、配属されたばかりの4年生が、互いに励ましあって勉強している。

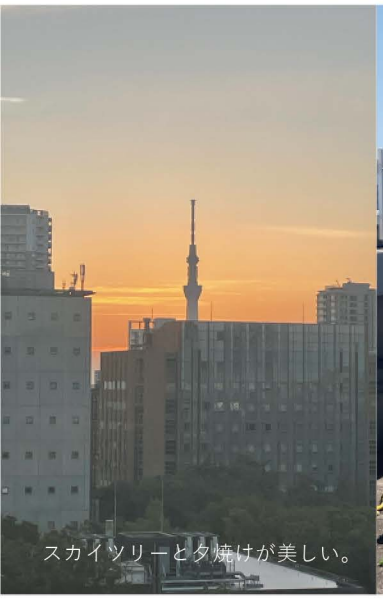
目まぐるしい日々と、めまいのするような暑さに辟易している。

今回は、屋上で夜のお茶会をして、みんなでおしゃべりしながら休息をとることにした。

研究室の目の前には、本郷キャンパスを一望するバルコニーがある。

このポテンシャルを生かすため、野菜を育てたり、ベンチを設置したり、小さな変化を起こしてきた。

バルコニーのポテンシャル



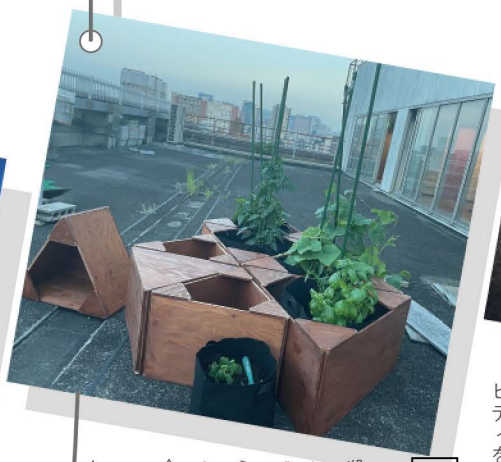
スカイツリーと夕焼けが美しい。

都市デザイン研究室の目の前のバルコニーは、広々としていて、休む場所としてのポテンシャルが高い。

日常の使われ方

バルコニーでの学生の活動を観察していると、電話をする人、歯磨きをする人、たそがれている人などがいた。木工のような作業の場所としても、よく使われる。多様なアクティビティを受け止めている。

屋上菜園



殺風景なバルコニーを少しでも魅力的にするため、野菜を植え始めた。そして、角の多いバルコニーに置いても映える、三角形のプランターを作った。ひっくり返すとベンチにもなる。組み合わせることでさまざまかたちを作ることができ、いびつなかたちの場所にも置きやすい。

ナイトシアター

バルコニーでナイトシアターを開催する、イケてるやつもいた。ショッピングモールを舞台とした、アニメーション映画を、スイカを片手に鑑賞したらしい。夏を全力で楽しんでいる。

お茶会

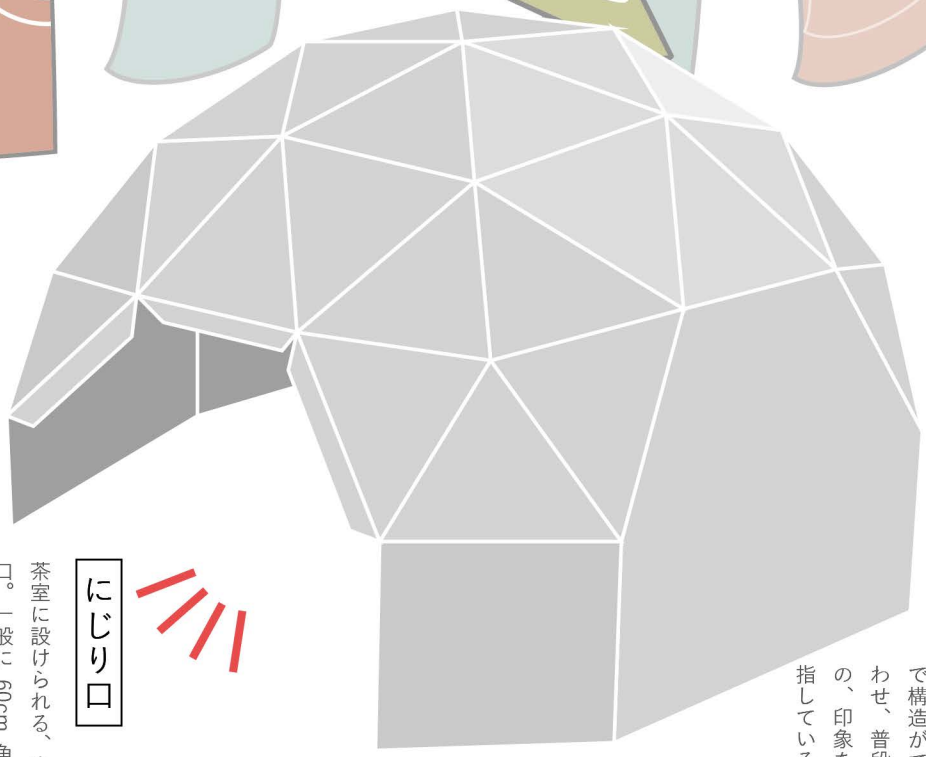
そして今回は、バルコニーで抹茶を飲むお茶会を開催した。昼は暑いから、夜集合で。ちゃんとした茶道具を揃えつつ、作法はカジュアルに、会話と夜風を楽しむお茶会とした。

道具にはこだわりつつ、みんなで屋上に座って、カジュアルに話せる雰囲気を作ろうと試みた。

お茶会のしつらえ

フラードーム

バックミンスター・フラーが発明したドームの形状。2種類の三角形のみで構成される。今回は、フラードームをテント用にアレンジしている。

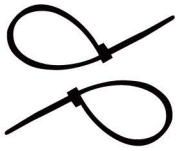


プラダン

引っ越しの養生などに使われる、プラスチック製のダンボール。知り合いのお茶師さんにインスパイアされて、プラダンのお茶室を作った。

結束バンド

ケーブルをまとめるのに使われる。このドームは結束バンドの接合のみで構造ができている。プラダンと合わせ、普段注目されないプロダクトの、印象を変えるような使い方を目指している。

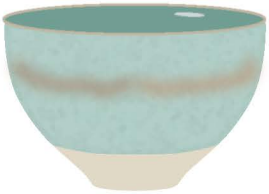


茶道具セット

アウトドアブランドのモンベルは、なんと野点セットも扱っている。アイテムは小さくて軽く、扱いやすい。野点セット ¥11,880（montbell）

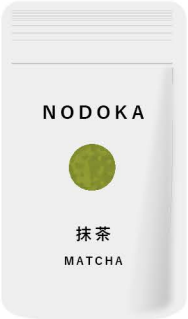
瀬戸焼の茶碗

瀬戸焼は、愛知県瀬戸市周辺で生産される陶磁器。ヒビの入る釉薬が特徴的。青には茶の緑が映える。［瀬戸焼］氷花茶碗ブルー ¥ 1,650（KEYUKA）



抹茶 NODOKA

抹茶の茶葉は、NODOKA の茶葉を選んだ。オーガニックで、粉末状になっているため、栄養価が高い。冷水や牛乳にも溶かして飲める。抹茶 30 杯分 ¥1,200（NODOKA）

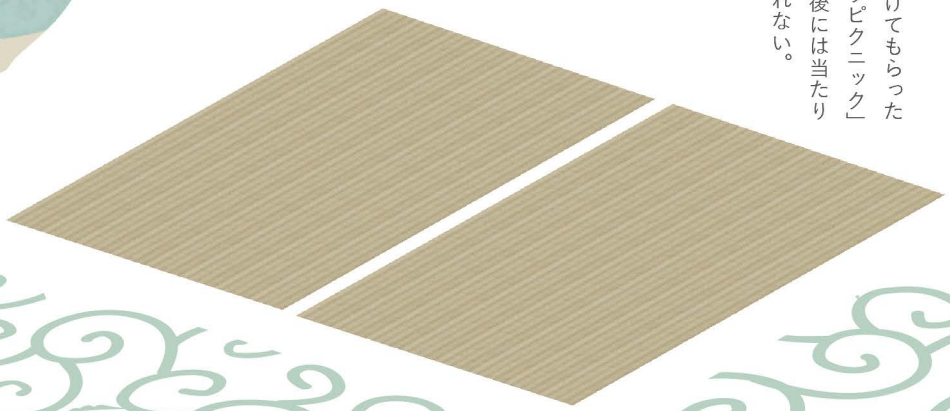


にじり口

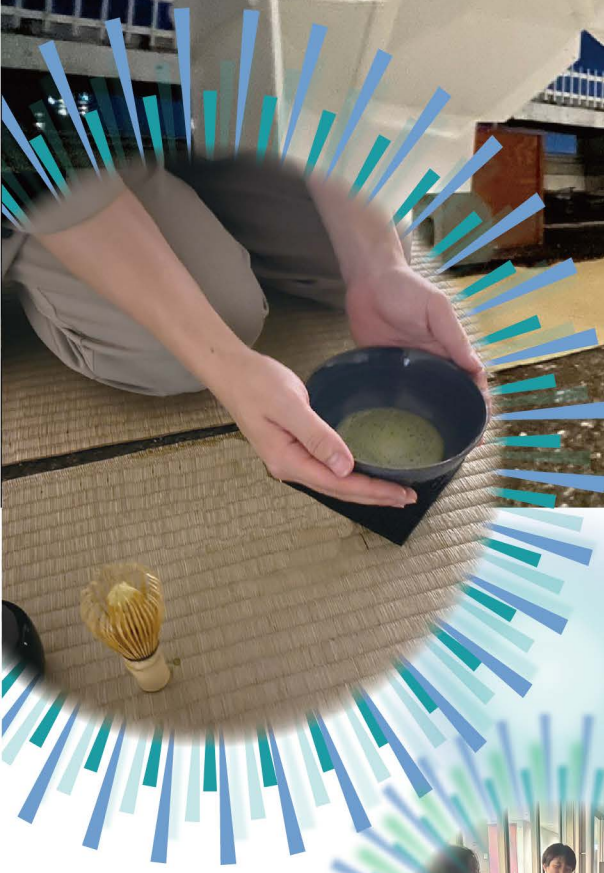
茶室に設けられる、客人のための入口。一般に 60cm 角程度の寸法で、客人は頭を下げながらくぐる。全体的に秘密基地のようなスケール感。

ゴザ

友だちの畳屋さんに分けてもらったゴザ。まちなかで「ゴザピクニック」をする文化が、何年か後には当たり前になっているかもしれない。



2日続けて開催。合計20人以上の人にお茶と会話を楽しんでもらった。



抹茶をふるまう

バルコニー茶会の開催日は、晴天に恵まれた。日の入りの後は徐々に過ごしやすい気温になり、そして意図していなかったが、きれいな満月の夜になった。

屋外で茶を点てる野点（のだて）は、古くから行われてきたもので、室内の茶事では重視される作法を簡略にして、よりカジュアルにお茶と会話を楽しむためのものである。

手元をみれば、趣のあるお茶会そのもの。ゴザに上がるとみな自然と正座になり、雰囲気を味わってくれた。一方で、五感を集中させてお茶と向き合うような場所とするには、まだまだ工夫が必要になりそうだ。

お茶はあくまでもきっかけ。会話を楽しもう。

自由な場が生まれる

その場に居合わせたゲストたちの間で、ざっくばらんな会話が生まれた。初対面の人同士では、自己紹介から。研究室の同期では、近況について。久しぶりに再会した友達同士では、昔の思い出を。

屋上の静けさは、自分のテンポで話すことを許容してくれる。話すうちに少しずつ本音が出てきて、相手の個性が見えてくる。いま熱中しているものの話、将来の話…

主語が「私」になることが、腹を割って話し始めた合図である。

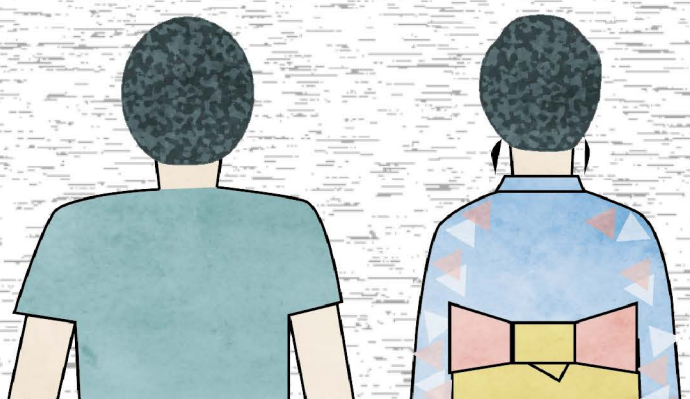
輪の囲み方にも、いろんなパターンが生まれてくる。

自販機の前でたむろするように座ったり、石で地面に絵を描いたり、ドームの中でミラーボールを回したり…

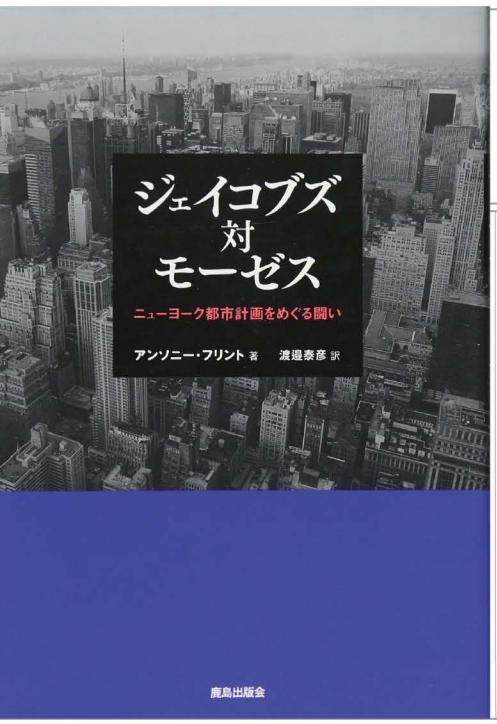
会話をしながら、その場の状況に応じて、おのおのが輪の囲み方をアレンジしていた。

バルコニーは、自由な活動を許容する、子どもの秘密基地のような場所でありながら、月とビルの光に照らされ、大人の別世界のような場所でもあった。

こんな豊かなリトリートの空間が、研究室の目の前にある。可能性は無限大。これからもこの場所を使い倒していこう。



夏休みの宿題として、研究室の学生に「読書感想文」と「絵日記」を提出してもらった。



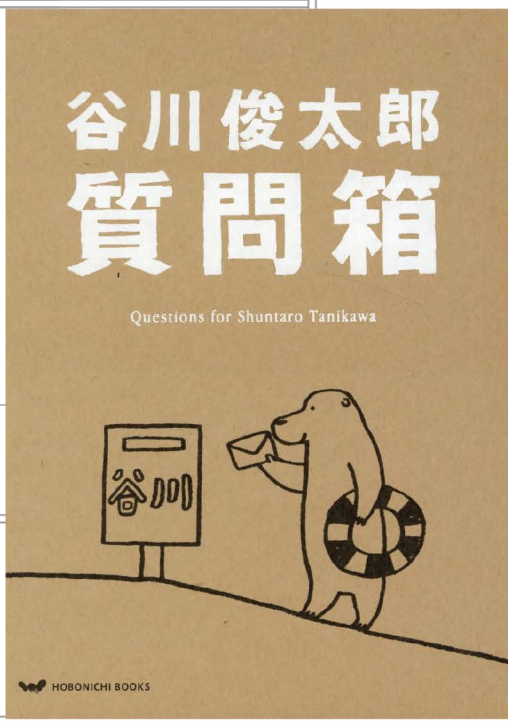
ジェイコブズ対モーゼス

題名
ジェイコブス対モーゼス
ニューヨーク都市計画をめぐる闘い

アンソニー・フリント著
渡邊泰彦訳
鹿島出版会
2011年

8月31日
でぃーさん 年
名前 きむ よんじゅん

都市を勉強している人ならば、誰もがジェイン・ジェイコブズの著作に目を通してるだろう。この本はそのジェイコブズが成し遂げた偉業が、当時のニューヨークで絶大なパワーを手にしていた政治家かつプランナーであったロバート・モーゼスとの「戦い（英語のタイトルはWrestling with Mosesである）」の中でどのように展開されてきたのかに焦点を当てている。著者はジェイコブズ寄りの立場でこの本を書いたと明言しているが、読めば読むほど単なる「善」と「悪」の戦いではなく、結局どっちも現代のニューヨークの成り立ちに欠かせない役割を果たしたのではないか、という感想に辿り着く。



谷川俊太郎質問箱

題名
谷川俊太郎質問箱
Questions for Shuntaro Tanikawa

谷川俊太郎著
東京糸井重里事務所
2007年

8月31日
えむいち 年
名前 やまだ まほ

「適当な性格をどう思いますか？」「適当ですむことは適当でいいんです。でも人生には適当ではすまないこともおこりますよね、（中略）『もういいや！』に代わるものとしてぼくは『ここらでひと休み』をおすすめします。」

あらゆるリスクに個人で対処し、自らの存在証明をし続けなければならない現代において、ひと休みできる場所はどこだろう。著者の回答すべてが、ひと休みできる社会への想像を広げさせる。

ところで、この読書感想文を提出するにあたり、〆切を延長してもらった。この「ひと休み」は許されるだろうか（〆切遅れてすみません）。

WEB MAGAZINE

暑気払い、Sセメスターを振り返り

#暑気払い

8月2日 天気 はれ

えむに 課程 年 名前 もりや ゆうすけ

各学年のジュリーを終え、暑気払いとして研究室の飲み会が開催されました。今回は、小石川後楽園の涵徳亭を借りて、庭の見事な景色を眺めながらの会となりました。ひとしきり食べて飲んでしゃべったあと、順番に夏の思い出や夏の抱負を述べました。最後をしめくくったのは、もちろん中島先生のお言葉。先生の修士学生時代を振り返りながら、夏の熱気を脳と体に帯びて、心残りのない毎日を送るように、というエールをいただきました。暑気を「払う」代わりに、暑気を全身に受けて、時間と仲間を大切に、精一杯日々を過ごそうと思います。

WEB MAGAZINE

さよなら、旧上吉田郵便局

#富士吉田プロジェクト

8月26日 天気 はれときどきあめ

えむに 課程 年 名前 はせがわ はな

道路の拡幅による建物の解体が迫るよこまちポストにて、展示を行いました。上吉田郵便局として建物が建った時から、学生が改修してまちづくり拠点として使われる現在まで、その約60年の歩みと記憶をアーカイブとしてまとめました。地元の吉田の火祭り・すすき祭り開催日に合わせて開催したこともあり、多くの方にご来場いただき、皆でよこまちポストの解体を惜しみました。中には子どもの頃に初めて通帳を作った場所がこだという思い出を語ってくれる方も。解体されてしまうのは悲しいですが、今後も多くの人の記憶に残り続けることを願います。

POSTSCRIPT

編集後記

日本の夏をテーマに、掛け軸のような縦レイアウト・レイヤーによる景色の捉え方・アイソメの視点を意識して紙面を作りました。最後のマガジン担当回、充実した企画になりました。

8月号担当 M2 森屋友佑

URBAN DESIGN LAB. MAGAZINE | vol.336

発行： 東京大学都市デザイン研究室マガジン編集部
平野真帆・伊藤純也・佐橋慶祐・高野楓己・橘俊輔・永井鷹一郎・長谷川帆奈・森屋友佑
音山尚大・小林夏月・洲崎玉代・水野謙吾・元吉千遥・山田真帆
発行日：2023年8月31日